

DX推進企画書

株式会社島袋

2022年1月制定

2022年6月追記

2023年10月改訂

2024年4月改定

Shima Bukuro



目次

01.長期ビジョン

2030年までの目標

ステークホルダーとの関係性

03.DX化推進体制

DX化へ向けての組織体制

それぞれの役割

02.DX化推進シナリオ

DX化に向けての

短期目標・中期目標・長期目標

04.現在の取組み 将来の戦略

データドリブンマーケティング

WEB受注システム

在庫管理のリアルタイム化

05.セキュリティ対策

今後のセキュリティ対策方法

06.IT人材育成

IT人材育成の方針





01. 長期ビジョン

株式会社島袋は現在行っている金物・工具のルート販売において、デジタル化の推進・販売データの活用によりステークホルダーに新たな価値の提供をし続け、2030年までに地域の建設業・建築業を包括的に支える企業になることを目指しています。



02. DX化推進シナリオ

2024年～2025年

- ・モバイル受注システムの稼働率を上げる
- ・モバイルを活用した受注・出荷・検品作業の業務変革

2027年～2028年

- ・シマコーポレーション含む販売データを活用して、ステークホルダーへ店舗レイアウトまで含めた企画提案を行い、付加価値を提供する

- ・顧客がWEBで注文できるプラットフォームの作成
- ・関西小売店舗（シマコーポレーション）の売上情報を共有し、販売に活用する
- ・仕入れ先と販売データの共有
- ・ステークホルダーとの連携を通じて社内DX人材の育成を強化する

2025年～2027年

- ・地域の建設業・建築業を包括的に支える企業になる

2028年～2030年



DX化推進シナリオ 達成にかかる指標

短期指標

- ・2024年内に受注～出荷業務のモバイル使用率70%を目指す。
- ・独自に定めたITツール活用指数で全社員が合格点に到達する。

中期指標

- ・自社WEB受注システムの構築により2026年度末までにステークホルダーとのデータ連携を50%にする。

長期指標

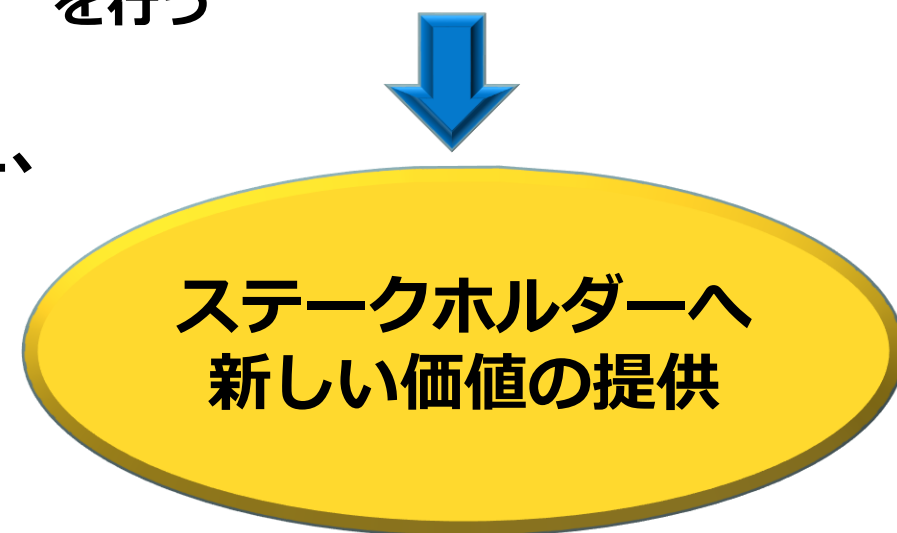
- ・2030年までに流通BMSを導入し、ステークホルダーとの連携を強化、稼働率を70%にする。
- ・業界のリーディングカンパニーになる。



03. DX化推進体制

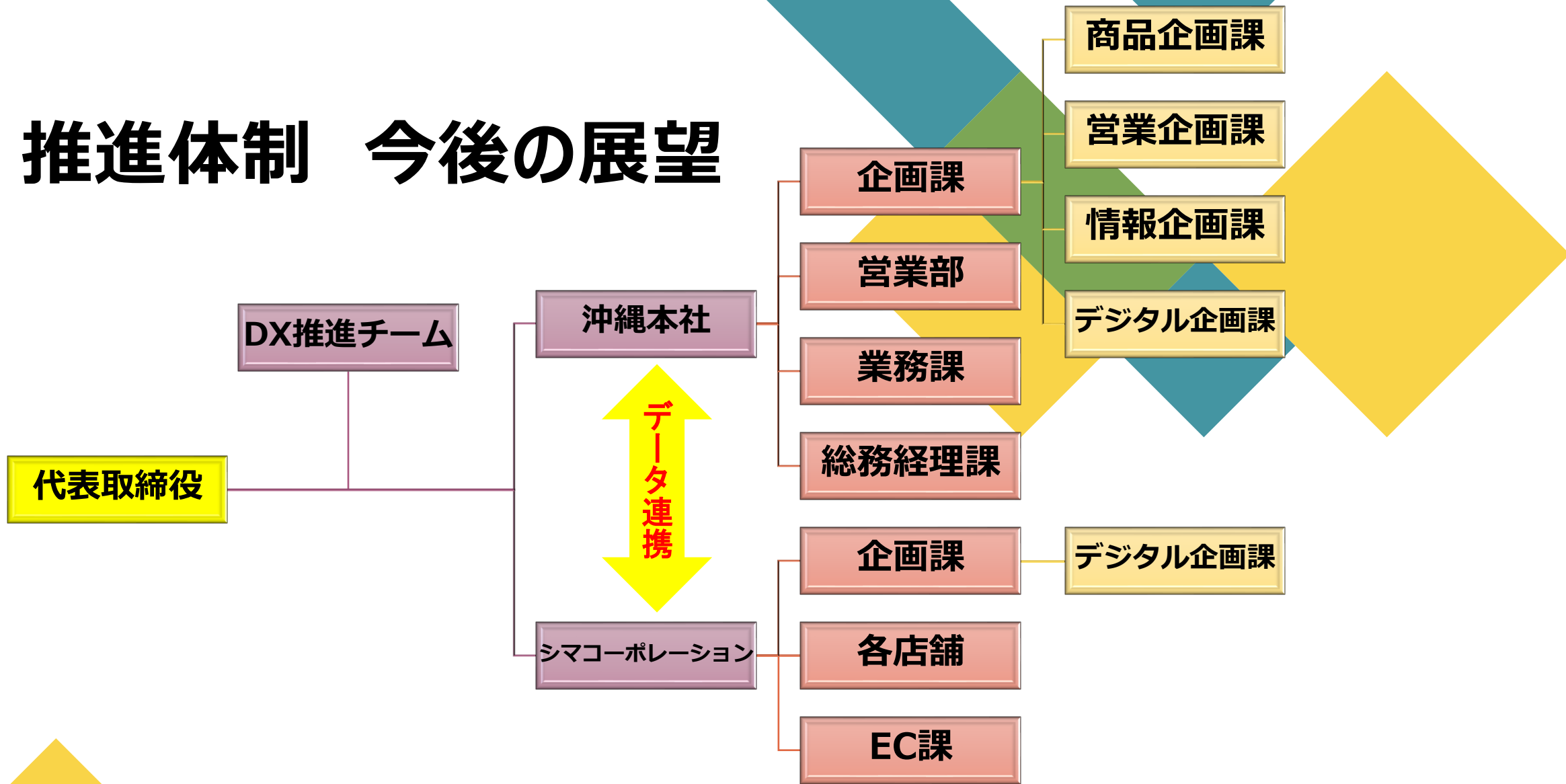


- ・社長を最高責任者として3つの課にそれぞれ役割を与え、組織としてDX化に取り組んでいます。
- ・徐々に参画部署を増やし、最終的には全社員がDX化推進担当になることを目標としています。





推進体制 今後の展望



DX推進チームが、全ての部署と連携を取りながら情報共有、システム活用を促進する。
各部署のDX担当が、課題解決に向けたDX化を促進する。



04. 現在の取組み 将来の戦略

本社

- ・ モバイル端末を使用した、受発注システムの活用
- ・ モバイル端末を使用した、棚卸システムの活用
- ・ 在庫商品のロケーション管理

シマコーポレーション

- ・ クラウドストレージを活用したファイルの共有
- ・ ポータルサイトを活用したデータドリブンマーケティング
- ・ 動画サイトやSNSを活用したSNSマーケティングの導入



将来的なDX戦略

SaaSを活用したデータドリブンマーケティングの実施

お客様のニーズに迅速に対応出来る様、SaaSを活用したデータドリブンマーケティングに取り組みます。店舗側（シマコーポレーション）POSから収集されたデータを可視化、データ分析の結果を基に 施策や実行計画を作成・実施、施策の評価を行なうPDCAサイクルを実現します。また、本社側においても同可視化されたデータを分析し、取引先様への新規提案に活用出来るよう情報の共有化を推進します。

PaaSを活用したWEB受注システムの構築と業務プロセスの改善

クラウド上に自社受注システムを構築することにより、現在お客様からFAXでいただいているご注文をWEB受注に切換え、双方向の利便性を高め、即納体制の充実、常に新しい商品情報の提供を行うことで、お客様満足度の向上を目指します。



在庫管理の「リアルタイム・ニアリアルタイム化」

流動性の高いビジネス環境の変化に迅速に対応する為には、在庫管理の精度の向上が不可欠であり様々な場面で取扱商品在庫数の「見える化」さらに「リアルタイム・ニアリアルタイム化」が求められています。「入荷」から「出荷」までの業務改革、仕入先様とのデータ連携(流通BMS)を推進し、より精度の 高い在庫管理を実現し、遅延の無い商品供給を実現します。



DX戦略ロードマップ

	Phase0（現在）	Phase1（2026年まで）	Phase2（2030年まで）
環境整備	<ul style="list-style-type: none">・DX推進チームを中心にしたWebシステム活用に関する勉強会の実施社内要望を取り入れながら、システム改修を行い、利用率UPを図る	<ul style="list-style-type: none">・クラウド上にデータウェアハウスを構築し、勤怠データ・POSシステムと連携させる・クラウド上に自社WEB受注システムを構築	<ul style="list-style-type: none">・流通BMSを導入し、発注から入荷までの業務効率化・リアルタイムでの在庫管理
人材育成	<ul style="list-style-type: none">・BIツールに関する外部研修の実施・Googleデータポータルに関する社内勉強会の実施・社内Webシステム活用に関する勉強会の実施	<ul style="list-style-type: none">・DX推進チームを立ち上げ、BIツールのノウハウを横展開する・データウェアハウスに集約したデータを活用できる人材を育成する	<ul style="list-style-type: none">・流通システムに特化したIT人材の育成・ITの活用法などを互いに発信できる場を設け、全社員のITスキル・業務スキルをレベルアップする



05. セキュリティ対策

弊社は情報処理推進機構（IPA）が実施している、「SECURITY ACTION」における2つ星を宣言いたします。

お客様情報や社内重要情報を適切に管理し、継続的な情報セキュリティ対策の見直しと改善を行って参ります。

弊社の事業を安全かつ継続的に行うため、「情報セキュリティ基本方針」を定め、これを徹底いたします。



セキュリティ対策自己宣言



近年、企業を対象としたサイバー攻撃により、大きなダメージをうける事件・事故が多発しています。弊社においても、ITを利活用し事業を発展させていく上で、経営者自らがリーダーシップをとりサイバーセキュリティ対策を講じる必要があると考えております。業務上の関係者（お客様、取引先、委託先等）からの信頼を高めるため、以下の施策を段階的に実行します。

情報セキュリティ
ハンドブックを
作成し全社員へ共有



情報セキュリティ
関連規定の策定



クラウドサービス
安全利用の手引きを
作成し全社員へ共有



リスク分析シートを
活用し、定期的に社
内診断を実施



06. IT人材育成

認知・理解

- DX担当が全社員に対し積極的に情報を発信することで、業務を行うにあたり活用できるITの種類や機能・仕組みを知ってもらう。

応用・活用

- 業務の課題を洗い出し、課題解決に有用なITを選定、ITを利活用することで目的に合った情報を取得・分析し、情報の見える化・共有化を行い、課題解決に繋げる能力を向上する。

セキュリティ

- ITを安全に利活用するためのセキュリティ対策やコンプライアンスの知識を共有する。



最後に

株式会社島袋はDX推進を成長戦略の柱とし、企業価値を高めることで持続的な成長を目指します。

お取引先様の最良のパートナーであり続けるために、今後も様々な取組みを行って参ります。

今後とも変わらぬご高配のほどよろしくお願い申し上げます。

★注意事項★

本資料に掲載された情報は、改訂日において入手可能な情報に基づくものです。
経済動向の変化等により本資料の内容と異なる施策を採用する場合がございます。